

報告ダイジェスト

・ふるさと渋谷フェスティバル開催報告	(報告1)
・ありがとう! えびす・ぱれっとホーム(寄稿)	(報告2)
・らぶらび作りワークショップ	(報告3)
・連合運動会に参加!	(報告4)
・障害者週間記念式典表彰式	(報告5)
・障害者週間区役所合同販売会	(報告6)

報告1 ふるさと渋谷フェスティバル開催報告

11月1日と2日、代々木公園にて「第48回渋谷区くみの広場 ふるさと渋谷フェスティバル」が開催されました。今回もぱれっと親の会とおかし屋ぱれっと・工房ぱれっとと合同でブースを出店、企業様よりご提供いただいた品物の販売と、作業所商品、そして今年から新たな試みとしてアトラクションやワークショップを同時開催しました。

●当日の様子

前日の搬入では雨模様でしたが、当日は2日間ともお天気に恵まれ、多くの来場者がありました。作業所の売上は約17万円、親の会バザーとワークショップは合わせて約23万円と昨年を上回る結果となりました。初開催となったワークショップではお子様が熱心に取り組む様子も見られ、例年とはだいぶ違った新鮮な雰囲気のブースとなりました。



▲バザーも盛況でした



▲輪投げも開催



▲らぶらび作りワークショップ

●ぱれっと親の会会長より

今年のくみの広場は、例年のやり方を踏襲しつつ、新たな企画を模索し、親の会の皆で奮闘いたしました。おかし屋工房のクッキーやらぶらびの販売の他、例年の企業様からの献品は食品中心で、今年も大盛況でした。新たな企画として、【らぶらびのワークショップ】【輪投げ】【ぬりえ】を行ない、お揃いのらぶらびTシャツも作成し、大いに盛り上がりました。このように新たな企画を行なったのは、昨年のくみの広場の反省の中に、「ぱれっとの素晴らしい商品を全面に出したい」という親の意見があったからです。それを受けて楽しい企画が生まれ、実現に至りました。反省点はあるものの、親の会が丸となり、概ね成功したと思っています。繁忙期にも関わらずご協力いただきました職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(ぱれっと親の会 田代真紀子)

品物のご提供、ありがとうございました。

- ◆シマダヤ株式会社様
- ◆株式会社ナイガイ様
- ◆キューピー株式会社様
- ◆株式会社大和証券グループ本社様

(事務局長 南山達郎)

ありがとう！えびす・ぱれっとホーム第1弾

報告2 31年前にタイムスリップ

— 昨年、事業を終了した『ぱれっとの家いっくと』の建物へ『えびす・ぱれっとホーム』が移転し、新たな1ページを迎えました。そこで、今回と次回の2回にわたり、えびす・ぱれっとホームについての寄稿を取り上げます。第1弾は、久しぶりに戻ってきた開設当初の職員、安部能樹さんからの寄稿（タイムスリップ?）です。

●はじめに

私が、えびす・ぱれっとホームに入職したのは1993年の設立から半年経ってからでした。私にとって障がい者福祉はまったく未知の存在でした。あれから他の福祉の世界を経験し、今年3月にぱれっとに戻ってきました。

●開設当初

入職時、既に6人の利用者が生活していましたがグループホームの何も分からない中どのように利用者と接すれば良いのか悩み、更に緊急一時保護事業（現在は運営しておりません）が併設されていたので介護未経験の私は先任スタッフの足を引っ張る存在でした。

●きめ細やかな支援

そこで出会ったのがM施設長でした。すでにベテランの域に達した経験豊富なリーダーとしてスタッフをまとめながら専門的な話やトップダウン的な指示は行わずにミーティング時には管理的な援助を廃して個別支援を実践する方法を毎日話し合った記憶があります。30数年前に既に時代を先取りした支援を実践する活動が始まりました。グループホームの設立理由は学習・教育・訓練の場ではなく、共同生活の中での生活体験とコミュニケーション技術を獲得するのが目的でした。できないことを代行するというよりも、できることを増やすのが目標でした。

●様々な行事

そこで、手探りの実践が始まりました。グループホームの中だけでは生活援助のみで

留まるため外に出ることを始めました。利用者の話を聞きながら、やってみたいことを一緒に実現する方法を考えました。当初は職員が中心となり、買物支援・通院同行・職場訪問を始めとして、地域との交流のため町内会活動やお祭りへの参加を通じて、地域生活者としての存在をアピールし、その後、地域の方の協力を得ることにつながりました。また、始まったばかりの学校施設開放事業に参加し、スポーツやレクリエーションを体験することでボランティアを確保することができました。様々な活動の中でトピックスとなったのは利用者が企画した箱根旅行を実現させたことでした。

しかし、職員の疲労が蓄積するなどの弊害が生じました。緊急一時保護事業を抱えながらの支援量の増加はスタッフへの負荷として如実に現われました。この反省からボランティアへの移行を本格化しました。

●料理ボランティア

そこで、夕食調理のボランティアを確保することでスタッフの負担軽減と外部の方の眼を通した運営のあり方を模索しました。実習生、アルバイトスタッフを日常的に導入することで新しい風を吹き込みグループホームの開放を進めました。

●入居者の成長

今年、20数年ぶりに入居者の方に再会し、その成長ぶりに驚きました。年齢を重ねた経験や人的交流を深めた結果、落ち着きとシなやかな生き方に感激しています。

（嘱託職員 安部能樹）



【初めての箱根旅行】（1994）

報告3 らぶらび作りワークショップ

12月上旬の障害者週間に合わせて区内各所でシブヤフォントの展示イベント「SHIBUYA FACTORY」が開催されました。その一環で、東急プラザ原宿「ハラカド」の7階にある「シブヤフォントラボ」で各事業所によるもの作り体験ワークショップや、クリスマスオーナメント作り、「対話型アート鑑賞」など様々な催しが開催され、多くのお客様が来場されました。

12月7日（日）は工房ぱれっとが「みにらび」にお気に入りの布やボタン、ビーズなどを飾り、オリジナルの「Myみにらび」作りができるワークショップを開催し、ぱれっとメンバー2人も参加者の親子と一緒に製作をしました。丸い布をたくさん付けたり、「普段自分は着られないから」とフリフリの服を着せたりと、皆思い思いの作品作りを楽しみ、中には2時間以上集中して作っている方もいました。最後の仕上げにと、メンバーが自分で選んだ「鼻」のパーツを参加者に配っていました。普段はなかなか体験できないお客様との共同作業と交流をメンバー達も楽しんだようでした。

（おかし屋ぱれっと 山元絵里）



報告4 連合運動会に参加！



11月23日（日）に渋谷区スポーツセンターにて行なわれた渋谷区障害者団体連合会の運動会に参加してきました。近年は、午前の部と午後の部に分かれて開催をしています。ぱれっとは午前の部で、9時30分からの開会式ではラジオ体操をし、チアリーディングの動きと音楽に合わせて踊って体を温めました。全員参加のパン食い競争の他、赤組白組に分かれて、玉入れ、大玉転がし、リレーなど、様々な事業所や団体の方々と一緒に一生懸命競いました。

綱引きは1対1で引き分けとなり、最後までハラハラドキドキの激戦が繰り広げられました。そして、リレーでは1, 2フィニッシュをすることができて、ぱれっとの参加した赤組が優勝しました。赤組を代表して、しぶや・ぱれっとホームで暮らしている伏見さんたちがトロフィーを受け取りました。おめでとう！



（おかし屋ぱれっと 井上ムハンマド）

報告5 渋谷区障害者週間記念式典表彰

12月6日、渋谷区役所14階大集会室において令和7年度「障害者週間・記念式典」が行なわれ、えびす・ぱれっとホーム開所当初から入居されている渡辺麻美子さんが表彰されました。前日まで表彰者代表挨拶の練習に取り組んでいたこともあり、いざマイクの前に立った麻美子さんをカメラで激写しながら、こちらも緊張。ですが、さすが麻美子さん、背筋を伸ばし大きな声で朗々と挨拶される姿は感動もの！たくさんの花束と「おめでとう」の言葉、そしてご家族に囲まれて笑顔の溢れた式典となりました。

（えびす・ぱれっとホーム 山木久美）



【代表挨拶での姿】



【第2・3位の哲也さんと2ショット】

報告6 障害者週間 区役所合同販売会

12月2日（火）渋谷区役所で合同販売会がありました。これは毎年、障害者週間の期間に行なわれる「渋谷区内障がい者就労支援事業所 自主製品販売会」という合同の販売会です。この日は8事業所ほどが集まり、ぱれっとからは職員1名、メンバー2名で参加しました。1階のエレベーターホールに集合し、販売場所は話し合いで決まりました。ぱれっとの販売場所はメンバーが希望した食堂の近くでした。となりで販売していた作業所の方の「どーぞー」という声が何とも優しく、癒されながらの販売でした。

ちょうど繁忙期と重なったこともあって、用意出来た商品数は少なめでしたが、人気もありすぐに完売した商品もありました。いつもの区役所販売はお昼の間だけで、今回は14時までと少し長めの販売会でした。曜日もいつもと違うのでお客様の顔ぶれもいつもとは違っていました。区役所の担当の方のサポートもあり、とても賑やかな販売会になりました。メンバーも目の前でどんどんお菓子が売れて行くのが嬉しかったようで「楽しかったー」「いっぱい売れたよー」と笑顔で戻ってきました。

（おかし屋ぱれっと 山元絵里）